

第3回「核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合」の開催

inout
&

2021年12月9日(木) テレビ会議方式



冒頭挨拶をする岸田首相（内閣広報室）

12月9日に行われた第3回「核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合」に岸田文雄首相が総理大臣として初めて出席した。また、グスタヴォ・スラウビネン NPT（核兵器不拡散条約）運用検討会議議長候補、中満泉国連事務次長・軍縮担当上級代表、核兵器国と非核兵器国を含む15カ国の政府関係者ならびに核軍縮に関するさまざまな立場の国内外の民間有識者が参加した。

岸田首相は冒頭挨拶において、国際的な軍縮・不拡散体制の礎石となるNPTの重要性や各国の核戦力についてさらなる「透明性」の確保を強調した上で、核軍縮への立場が異なる国々の溝が深まるなか、核兵器国も関与させつつ、唯一の戦争被爆国である日本が「分断から協調へ」と導く決意を示した。そのために、2022年1月に開催予定だったNPT運用検討会議にて「核兵器のない世界」に向けた前進となる合意文書の採択に向け、寺田核軍縮・不拡散担当首相補佐官の関係国への派遣などの働きかけを行うことを明らかにした。

また会合では、NPT運用検討会議において、NPTの3本柱（軍縮、不拡散、平和的利用）のバランスのとれた成果のあり方など、意義ある成果を達成するための方策について議論が行われた。残念ながら、米国における新型コロナウイルスの感染拡大のため同会議は開催延期となったが、本会合の開催は核軍縮・核不拡散に向けた日本の努力を具現している取り組みであり、参加者からは岸田首相のリーダーシップに対し高い評価が示された。